一八、五、一
一八、一一、三〇
第一次
ビスマルク戦

一、大隊はニューギニヤ作戦に於て其の2/3を喪失爾後ラバに在りて防空並に警備に従事しつつ部隊再建業務に服す
自一八、五、一
至一八、八、二九
五月初旬補充員約二〇〇名到着す
七月六日栗屋少佐大隊長として着任大原中佐と交代す

二、輸送業務 自一八、八、三〇
至一八、九、三〇
大隊長以下約六〇〇名は驅逐艦に依りツルブへ前進第一
第三中隊主力は大発機動に依りツルブに前進す
本部第一、第二中隊の一部計一〇〇名は副官指揮しカロベ島の警備に任じつつツルブに前進す

三、ツルブ要地防空警備 自一八、九、一
至一八、一一、一〇
九月上旬補充員中尾見習士官以下六七名ラバウル到着、内中尾見習士官以下二一名は昭一八、九、一七より二一日に至る間三回に亘り潜水艦に依りニューギニヤに先行せし

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

も爾後の狀況急変と連絡不能に依り其の消息を確認し得ず

殘余の六四名は羽田見習士官之を指揮し十一月下旬賀武に追及大隊長の指揮に入る

四、輸送業務　自一八、一一、一一　至一八、一一、二〇

大隊長　栗屋少佐以下約一五〇名賀武へ転進

五、賀武要地防空警備　自一八、一一、二一　至一八、一一、三〇

大隊長　栗屋少佐以下約二〇〇名

才二中隊

ラエ、サラモア要地防空警備並にラエ地上警備

自一八、五、一　至一八、一一、三〇

才二中隊長浦山大尉以下約一一〇名ラエ要地防空警備に任じありしが五月中旬以降サラモア転進に伴いマダンに転進す

戦死傷　約一〇名

戦死傷　約三〇名

0174

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

	才三中隊 カライアイ要地防空警備 中隊長河村中尉以下約一一〇名	自一八、一〇、一 至一八、一一、三〇	戦死傷 約二〇名
一八、一二、一 一九、三、二四	賀武要地防空警備 大隊長　栗屋少佐以下約二〇〇名 （本部才一中隊段列の主力） 才二中隊 転進作戦（ラバウル）要地防空警備並に再建業務徒歩行軍に依りラエを出発マダンに集結パラオを経て一九、一、初旬ラバウル到着中隊の再建をなしつつ要地防空警備に任ず （39AA 41AA 45AA 30MA の残留員の一部を補充さる）		戦死傷約五名
才二次 ビスマルク戦	才三中隊 カライアイ要地防空警備 カ号転進作戦 賀武要地防空警備		戦死傷 約二〇名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

才六五旅団長の指揮を脱し賀武へ転進三月上旬以降大隊長の指揮に復帰す 中隊長川村中尉以下約一〇〇名 才一中隊伊藤少尉の指揮する小隊六〇名はナタモ前面に上陸せる敵と交戦す 服部少尉の指揮するマーカス陸路輸送隊約二五名、小森支隊に対し昭一九、一二、下旬以降糧秣を陸路臂力輸送す爾後主力に追及三月下旬賀武に到着大隊長の指揮に入る	戦死傷約一五 戦死傷約三〇 戦死傷約一〇	
一九、三、二五 一九、一〇、三一 才三次 ビスマルク戦	賀武要地防空並にカ号転進作戦 自一九、三、三〇 至一九、五、七 主力は徒歩行軍一部は舟艇機動に依り夫々賀武を出発五月七日ラバウルに到着す ラバウル要地防空警備 ラルアン、ラボロ及田の浦東飛行場等に在りて夫々防空に従事す 大隊長 栗屋少佐以下約四〇〇名	戦死傷約二五

0176

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

一九、二、一 三〇、四、一四 第四次 ビスマルク戦	ラバウル要地防空警備 東飛行場に在りて防空に従事 大隊長　栗屋少佐以下約四〇〇名 四月九日復員復帰下令編成に着手す	戦死傷　約五

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan